

評価から評定への総括方法

1 単元（題材）における観点ごとの評価の総括

(1) 評価規準の作成

教科目標、評価の観点及びその趣旨から各単元の評価の観点ごとの評価規準を作成する。

(2) 評価項目の作成

評価規準を基に、具体的な評価項目を作成する。

(3) 評価基準の設定

各評価項目ごとに3段階（ABC）の基準を設定する。

(4) 評価

授業中、授業後の観察、ノートや学習カード、作品、テスト等により、A、B、Cの評価を行う。

(5) 評定

評価項目における評価から観点ごとの総括を行う。

＜総括の方法＞

- ・評価項目ごとの評価A、B、Cを3，2，1で数値化する。
- ・評価の各観点の合計点について、

90％以上をA、60％～89％をB、それ未満をCという考えに立って総括する。

2 学期末における観点ごとの評価の総括

(1) 単元（題材）ごとの評価結果を総合的に総括する。

＜総括の方法＞

- ・学期を通した評価項目の評価を数値化し、90％以上をA、60％～89％をB、それ未満をCという考えに立って総括する。

(2) 総括の結果を基に通知表の学習評定を行う。

＜評定の方法＞

- ・総括の結果Aを「よくできる」、Bを「できる」、Cを「もう少し」の考えに立って評定する。

3 学年末における観点ごと評価の総括

(1) 単元（題材）ごとの評価結果から総合的に総括する。

＜総括の方法＞

評 定	判 定 基 準			
3	A A A	A A B		
2	A B B	B B B	A B C	A A C
	A C C	B B C		
1	B C C	C C C		

- ・上記の場合以外は、観点ごとの重み付けの違いや実現状況に幅があることを考慮して総括する。

(2) 総括の結果を指導要録に記入する。